

夜空にかがやけ！わたしの光のまい

豊小・5 山口莉央

そう思いながらわたしは、緑とむらさきに光りかがやくトーチぼうをぎゅっと強くにぎりしめた。

七月の終わりに、五年生全員で野外活動に行った。みんなで楽しく長い時間バスに乗ったり、おいしいカレーを仲良く食べたり、友達とログハウスにとまるなど初めてのドキドキ体験がたくさんあった。その中でもわたしが一番楽しみにしていたのは、キャンプファイヤーで行う光のまいだ。今までの五年生の人たちが校内発表で光のまいをしているのを見た時、

「おおー！きれいだな！！」

と感動して、わたしも五年生になったらちよう戦してみたいとずっと思いつけてきた。だから野外活動の係決め時には、迷わずに「ファイヤー」と大きい字で書いて希望の紙を出した。係が発表された時は、

「光のまいができるんだ！」

と心の中でガッツポーズをした。

いよいよ光のまいの練習が始まった。野外活動は夏休み中にあるので、一学期までに動きを覚えなさいといけなかった。初めてあこがれのトーチぼうを持った時は、思ったよりも重くてうまく回せられなかった。毎日休み時間を使って練習した。そしたら、人差し指と中指の間の皮がむけた。ヒリヒリして痛かった。これは毎日がんば

っているあかしだと思つて練習を続けた。でも、一学期中に、自分が満足できる人の字はできなかった。

夏休みに入り、わたしは人の字が出来ないことがくやくして家で練習した。家での先生は父だ。父は小学五年生の時に、キャンプで火のまいをやった。

「昔は本物の火をつけてやったんだぞ。」

と父は自まん気に言った。本物の火もかっこいいけど、それに負けないライトの光を見せてやろうとわたしは思った。父に人の字の動きのお手本を見せてもらったり、わたしのうでを持って一緒に動かしたりして教えてくれた。手を交差させるところがむずかしくて、と中で混らんした。でも、絶対に来るようになるうと思つて、何度も練習した。毎日練習して父の前で最終テストをやった時、

「よし、できてる。」

と言つてもらい自信がついた。

野外活動の夜、ついにキャンプファイヤーの時間がやってきた。わたしの出番はBチームだ。Aチームの光のまいを自分の出番を楽しみにワクワクしながら見ていた。暗い中でかがやくオレンジやピンク、青の光がとてもきれいだった。Aチームのえん技が終わった。友達からトーチぼうを受け取り自分の立ち位置に立った時、目の前に見えるキャンプファイヤーのほのおの様に、わたしのやる気のほのおがもえ上がった。きんちようは全然しなかった。それよりも、実際に光をつけてえん技が出来るうれしい気持ちの方が大きかった。音楽がかかり、わたしはトーチぼうを回し始めた。前、後ろに回す動きはスムーズに進んでいる。大きく回すのがかっこいい大車輪もうまくいった。そして、いよいよ人の字だ。学校や家での練習を思

い出して精一ぱい力強く回した。八の字をやったのは十秒くらいだけど、自分の中ではとても長く感じた。ホタルが飛び回る様に、わたしの光も八の字をえがきながら夜空に美しくまっただ。わたしの光のまいは大成功した。

光のまいをけい験して、ちょう戦することの大切さを学んだ。わたしは不器用で、細かい動作を覚えるのが苦手だ。でも、あこがれていた光のまいはこの野外活動でしかできないので、思い切ってちよう戦した。覚えるのが早い友達をみてあせったり、上手く出来ない自分がくやしかったりした。けれど、自分のペースでコツコツ練習して出来るようになった。これからもむずかしいことにちよう戦して、光のまいの光の様にわたしの未来もかがやかせていきたい。